

## 問題

下記の文章を参考にして「海を通して世界を知る」という観点から、海洋についての課題を設定し、その課題についてのあなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

海岸林の中には、崖の斜面にせり出して成育し、その影が海に映って、静かで暗く落ち着いた環境を海の中に作り出す場合があります。このような環境は魚が集まりやすく、安心して繁殖できる場所であると言われてきました。そのため、このような林を「魚つき林」と呼んで、場所によっては漁業の面から大切に保護してきました。

しかし、海岸の近くの森だけでなく、内陸部の森林が魚つき林と言って良いのかも知れません。なぜなら、海から遠く離れた山奥の森林も、海的环境や生物たちに大きな影響を与えていることがわかってきたからです。実は、豊かな森のある山から川を通して海に運ばれてくるミネラルや栄養分が、海の中の食物連鎖のおおもとになって海の豊かさを支えているのです。

山が荒れて木が枯れてしまったり、伐採された時のことを考えてみましょう。雨が降ると表土が削られ土砂が川を下って海に入ります。きれいだった海水が濁り、土砂は海藻に付着したり、岩や海底を覆います。そうすると、泥の付いた海藻が枯れるだけでなく、泥に覆われた岩には新しい海藻も育たなくなります。海藻がゆらゆらとたくさん茂っている場所（藻場といいますが）は、波が静かでプランクトンをはじめとする小動物が多く、魚たちの産卵場、卵から孵った稚魚の成育の場ですから、それがなくなれば、当然魚がいなくなってしまうのです。藻場がなくなることを「磯焼け」といい、海藻だけでなく魚も少なくなってしまうわけですが、その原因は海だけではなく森にあったのです。ただし、海藻が豊かな藻場の状態と磯焼けが自然現象の中で繰り返されている場合もあります。

したがって、魚つき林とは、海岸林だけを指すのではなく、海の豊かさを支える上流部の森林も含めていることとなります。そう、日本の森林すべてが魚つき林といっても良いのです。

(財団法人河川環境管理財団監修、「海辺に親しむ」編集委員会編著  
「海辺に親しむ 海岸を知り、楽しむためのガイドブック」より抜粋)